

岩崎平太郎 建築家。日本の近代建築草創期を支える製図工として出発し、地元奈良県一帯で設計活動を展開した。

いわさきへいたろう

郡司千島探検1893 =

奈良県吉野郡下市町阿知賀で、山師で錫鉱山を採すべくこの地に来、代々住む一族の娘だと結婚、村で唯一軒の商店を営む岩崎平助の長男に生まれる。

日清戦争始・1894 = 1歳 :

妹の誕生後、

Bushidou・1899 = 6歳 : 父が死去。以後、母の手で育てられる。下市町立阿知賀尋常小学校に入学、

教科書疑獄・1902 = 9歳 :

日露戦争始・1904 = 11歳 : 成績優秀で卒業し、下市町立下市高等小学校に進む。

日露戦争終・1905 = 12歳 :

アヅキ 創刊・1908 = 15歳 : 卒業し、吉野郡立吉野実業学校木工科建築部に入学、建築への人生が始まる。

韓国併合・1910 = 17歳 : 成績優良により折尺の褒美、

大逆事件判決1911 = 18歳 : 卒業。建築部先輩坂口清一の紹介で、**京都府内務部社寺課に採用され、責任者亀岡末吉の薫陶を受け、**

明治天皇没・1912 = 19歳 :

大正政変・1913 = 20歳 : 京都の八坂神社西楼門の移転改築工事監督の功勞で、神社から感謝状と大和錦が贈呈されるなど、社寺建築の困難な技術を習得、製図の腕も磨かれる。その**能力を認めた近畿唯一の職能建築家武田五一の推挙で、**依願免職し、農商務省製図嘱託となる。京都の武田のもとで、**パナマ太平洋万国博覧会の日本政府館の設計製図に参加、現場監理のため、米国サンフランシスコに赴く。**

第一次大戦始1914 = 21歳 : 依願免職し、農商務省製図嘱託となる。京都の武田のもとで、**パナマ太平洋万国博覧会の日本政府館の設計製図に参加、現場監理のため、米国サンフランシスコに赴く。**

21ヶ条要求・1915 = 22歳 : 石川真能登の妙成寺五重塔の修理工事監理以降、**帰国後も、武田のサポート役となり、**

民本主義・1916 = 23歳 : 京都で知り合った川勝みやこと結婚。三重県で、観音提寺楼門の修理工事監理。

ロシア革命・1917 = 24歳 : 京都市で、武田設計の旧制第三高等学校大典記念館の工事監督、鉄筋コンクリート造を習得。

本格政党内閣1918 = 25歳 : 武田の業務サポートのため、京都に{木主社}建築事務所を開設。武田設計の下村忠兵衛邸を監督後、

ベルサイユ条約・1919 = 26歳 : 武田設計の勝田銀次郎邸監督のため、家族とともに神戸に転居、

大暴落・・・1920 = 27歳 :

原敬首相暗殺1921 = 28歳 : 京都に戻って武田設計の京都自動車会社監督後、***10年ぶりに吉野に帰り、自邸を新築。以後、フリーアーキテクトとして、武田設計の北村邸を手伝う一方、武田の推挙で吉野鉄道嘱託となり、駅舎・社宅設計。**

水平社結成・1922 = 29歳 : 長男弘誕生。武田設計の勝田銀次郎邸・奈良県知事公舎建設に従事。

関東大震災・1923 = 30歳 : 武田の繋がり北村林業部和歌山製材事務所建設。吉野鉄道の設計でも武田に指導受け、

護憲三派圧勝1924 = 31歳 : 吉野実業学校校友会誌創刊号に一文。吉野銀行の嘱託建築技術員にもなるが、

治安維持法・1925 = 32歳 : 天理教旧奈良教務支庁落成。

円本時代始・1926 = 33歳 :

金融恐慌・・・1927 = 34歳 : 阪本仙次郎別邸{白雲荘}を皮切りに、武田の指導を仰ぎながらも、地縁で**独自に設計するようになり、**

共産党事件・1928 = 35歳 :

世界恐慌・1929 = 36歳 :

海軍軍縮条約1930 = 37歳 : 増井正夫邸陸風荘・天理教敷島大教会・森野旧薬園中止荘創設。大礼記念京都美術館の設計競技に応募。

満州事変・1931 = 38歳 : **大きな建設プロジェクトを抱える奈良県土木工事に採用され、フリーアーキテクト時代が終わる。**

五一五事件・1932 = 39歳 : 奈良県土木課の建築技手となる。建国会館(橿原神宮外苑)。

国際連盟脱退1933 = 40歳 : 吉野銀行田原本支店。真管小学校奉安殿(橿原市)。**畝傍中学校本館・南館・講堂は現存する代表作。**

芥川直木賞始1935 = 42歳 : 治道小学校。丹波市警察署(天理市)を設計。

日中戦争始・1937 = 44歳 : ***奈良県協同病院の設計監督を委嘱され、依願免職。吉野を引払い、奈良市に岩崎建築事務所を開設。**

健保+総動員 1938 = 45歳 : ***師と仰いで来た武田五一が急逝、**

第二次大戦始1939 = 46歳 : **奈良県産業組合連合会の建築嘱託となり、諸施設の設計監理に従事、**

大政翼賛会・1940 = 47歳 : 建国会館(橿原道場)再建。**南都銀行の下市・手貝支店など、仕事は次々と舞い込む。**

日米開戦・1941 = 48歳 :

創価学会検査1943 = 50歳 : 奈良県から、傷痍軍人奈良療養所建築設計主任嘱託、

年金+総武装 1944 = 51歳 : 奈良県農業会の嘱託となり、農業倉庫を建設。

敗戦・・・1945 = 52歳 :

戦後も、岩崎建築事務所を続け、傷痍軍人奈良療養所の残務処理を行い、

新憲法施行・1947 = 54歳 :

極東裁判判決・1948 = 55歳 : 奈良県土木部建築課技術嘱託となって、公共施設の新設に関わり、

三男徹が岩崎建築事務所に入所して構造計算を手伝うようになる。

朝鮮戦争始・1950 = 57歳 : ***建築士法が制定され、それまでの実績で一級建築士となり、**

独立回復・1951 = 58歳 : **奈良県建築士会副会長を経て、会長となる。**

TV放送始・1953 = 60歳 : 村野藤吾設計の南都銀行本店増築には施主側の立場で関わる。

国連加盟・1956 = 63歳 : さらに多忙になってきたため、文部省施設部にいた長男弘が奈良に戻ってきて、後を継ぎ、

***以降、奈良県の建築に関わる審議会や委員会の委員となり、母校吉野実業学校の同窓会長もつとめ、一気に現場を離れて行く。**

十津川村二村小学校はじめ、小中学校校舎を手掛けるようになるが、もっぱら鉄筋コンクリート造のモダンデザインが求められ、得意とした歴史様式の機会や個人の邸宅の注文は皆無となる。

安保闘争・1960 = 67歳 :

タイタイ病始・1961 = 68歳 : 株式会社に変更。

全国総合計画1962 = 69歳 : 桜井商業高校竣工。

大学紛争始・1965 = 72歳 :

いざなぎ景気1966 = 73歳 : 勲五等雙光旭日章を受ける。

大阪万博・1970 = 77歳 : 奈良県協同組合会館を完成させ、自宅にあった建築事務所を移転。

石油ショック1973 = 80歳 :

角栄金脈辞任1974 = 81歳 :

・・・1984 = 91歳 : **没した。**

川島智生「岩崎平太郎の仕事」、